

(別紙様式3)

令和2年3月27日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
管理機関名 徳島県教育委員会
代表者名 教育長 美馬 持仁

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年 5月29日(契約締結日)～ 令和2年 3月31日

2 指定校名・類型

学 校 名 徳島県立城西高等学校神山校
学校長名 小原 史明
類 型 地域魅力化型

3 研究開発名

地域で学び地域と育つ神山校～中山間地の地域内循環モデルの構築～

4 研究開発概要

次の項目を、城西高等学校神山校を中心としたコンソーシアムと連携して取り組む。

- (1) 「神山創造学」の再構築 (2) 地域性を生かした質の高い教育環境の整備
(3) 地域の生産・交流拠点の創出 (4) 地域を学びの場とした実践

5 教育課程の特例の活用の有無

特になし

6 管理機関の取組・支援実績

- (1) 実施日程

| 業務項目 | 実施日程 | | | | | | | | | | | |
|---------------------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| (1)プロジェクトチーム会議※1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (2)カリキュラム開発等専門家会議※2 | | | | ○ | | | ◎ | | ◎ | ○ | | |
| (3)コンソーシアム会議※3 | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| (4)運営指導委員会 | | | | ○ | | | | | | | ○ | |

※1：事業を効果的に実施するための中核となる組織で、研究開発の内容や進め方、コンソーシアムを構成する各組織との連携方法などについて協議する。

※2：カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員、学校教職員（代表者6名）が参加し、カリキュラム開発及びプロジェクトマネジメントに関して協議する。

◎：カリキュラム開発等専門家会議，○：コンソーシアム会議に参加

※3：コンソーシアム構成員、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員、全学校教職員が参加し、全体会と分科会により効果的な連携についての意見交換や共通理解を図る。

(2)実績の説明

①コンソーシアムの構成

| 機関名 | 機関の代表者名 | |
|--------------------|---------|--------|
| 徳島県教育委員会 | 教育長 | 美馬 持仁 |
| 徳島県立城西高等学校神山校 | 校長 | 小原 史明 |
| 神山町 | 町長 | 後藤 正和 |
| 一般社団法人神山つなぐ公社 | 代表理事 | 桴谷 学 |
| 株式会社フードハブ・プロジェクト | 代表取締役社長 | 林 隆宏 |
| 徳島大学 | 学長 | 野地 澄晴 |
| 鳴門教育大学 | 学長 | 山下 一夫 |
| 大正大学 | 学長 | 高橋 英裕 |
| 株式会社えんがわ | 代表取締役社長 | 隅田 徹 |
| Sansan株式会社 | 代表取締役社長 | 寺田 親弘 |
| 認定特定非営利活動法人グリーンバレー | 理事長 | 中山 竜二 |
| 神山町林業活性化協議会 | 会長 | 後藤 正和 |
| 特定非営利活動法人里山みらい | 理事長 | 佐々木 宗徳 |
| 神山町下分保育所 | 所長 | 山口 准子 |
| 神山町広野保育所 | 所長 | 林 美智代 |
| 神山町神領小学校 | 校長 | 楠 達也 |
| 神山町広野小学校 | 校長 | 寺奥 幹生 |
| 神山町神山中学校 | 校長 | 川口 徹 |

②カリキュラム開発等専門家

| 氏名 | 所属 職名 | 専門分野 |
|-------|--|-------------------------|
| 尾崎 士郎 | 鳴門教育大学 特命教授（謝礼支払い） | 技術教育，木材加工 等 |
| 安永 潔 | 四国大学 経営情報学部 准教授（謝礼支払い） | 前学校長，農業教育 等 |
| 寒川 由美 | 徳島県教育委員会学校教育課 高校教育担当 指導主事（謝礼支払いなし） ※コンソーシアムプロジェクトチームに参加 | 高校教育，教育課程， 地理歴史科教育 等 |

| | | |
|------|--|--------------------------|
| 中川 望 | 徳島県教育委員会学校教育課 キャリア・消費者教育担当 指導主事（謝礼支払いなし） | キャリア・消費者教育， 農業・水産教育 等 |
|------|--|--------------------------|

③ 地域協働学習実施支援員

| 氏名 | 所属 職名 役割 | 雇用形態 |
|--------|---|--------------------|
| 森山 円香 | 一般社団法人神山つなぐ公社 理事・ひとづくり担当， 地域協働学習実施支援員チーフリーダー | 社会人講師として 週8時間勤務 |
| 秋山 千草 | 一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当 | つなぐ公社より週 2時間派遣 |
| 梅田 學 | 一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当 | つなぐ公社より週 2時間派遣 |
| 樋口 明日香 | 株式会社フードハブ・プロジェクト食育係・パン先生 | 社会人講師として 週3時間勤務 |

④ 運営指導委員会の構成員

| 氏名 | 所属 職名 | 専門分野 |
|-------|----------------------------------|-----------------------------|
| 前田 洋一 | 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 | カリキュラム開発， 学校組織マネジメント 等 |
| 鎌田 磨人 | 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授 | 生態系管理工学 等 |
| 向井 理恵 | 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 | 食品科学，栄養科学 等 |
| 松山 隆博 | 徳島文理大学保健福祉学部 准教授 | 地理歴史科教育，人権教育 等 |
| 高田 研 | 都留文科大学教養学部 特任教授 | 環境教育学，人文地理学 等 |
| 隅田 徹 | 株式会社プラット・イーズ 会長 | デジタルコンテンツサービス 等 |
| 大南 信也 | 認定特定非営利活動法人グリーンバレー 理事 | 神山町への各支援 等 |
| 高橋 博義 | 神山町教育委員会 教育長 | |
| 久保 素弘 | 城西高等学校神山校 学校評議員 | 農業教育 |
| 湊 雅邦 | 徳島県教育委員会学校教育課 キャリア・消費者教育担当 室長 | キャリア・消費者教育， 高校教育，数学科教育 等 |

※コンソーシアムプロジェクトチームについて

コンソーシアムプロジェクトチームの構成員

| 分類 | 氏名 | 所属・職 |
|----------------------|--------|-----------------------------|
| 学校代表 | 小原 史明 | 徳島県立城西高等学校神山校校長 |
| カリキュラム開発等専門家 管理機関 | 寒川 由美 | 徳島県教育委員会学校教育課 指導主事 |
| コンソーシアム構成員 | 桴谷 学 | 一般社団法人神山つなぐ公社 代表理事 |
| 地域協働学習実施支援員 | 森山 円香 | 一般社団法人神山つなぐ公社 理事・ひとづくり担当 |
| 地域協働学習実施支援員 | 樋口 明日香 | 株式会社フードハブ・プロジェク |

| | | |
|-------|-------|---------------------------|
| | | ト 食育係 |
| 学校教職員 | 岩見 孝宏 | 徳島県立城西高等学校神山校教頭 |
| 学校教職員 | 丸山 稔 | 徳島県立城西高等学校神山校 指導教諭 農場長 |
| 学校教職員 | 阿部 三代 | 徳島県立城西高等学校神山校 教諭 教務主任 |

事業を効果的に実施するための中核となる組織で、研究開発の内容や進め方、コンソーシアムを構成する各組織との連携方法などについて協議。

⑤管理機関（コンソーシアム含む）による主体的な取組について

| 活動日程 | 活動内容 |
|------------|--|
| 令和元年 6月 5日 | ○第1回プロジェクトチーム会議に出席（寒川） |
| 令和元年 7月13日 | ◎コンソーシアムキックオフ会議に出席（湊・中川・寒川） |
| 令和元年 7月19日 | ○第2回プロジェクトチーム会議に出席（寒川） |
| 令和元年 7月30日 | 「徳島県内の大学と徳島県教育委員会との連携に関する連絡協議会」において本事業の取組を説明（寒川） |
| 令和元年 8月 5日 | ○ロジックモデル打合会に出席（寒川） |
| 令和元年 8月26日 | ○第3回プロジェクトチーム会議に出席（寒川） |
| 令和元年 9月12日 | ○第4回プロジェクトチーム会議に出席（寒川） |
| 令和元年10月 9日 | ◎第1回カリキュラム開発等専門家会議に出席（中川・寒川） |
| 令和元年10月11日 | ○第5回プロジェクトチーム会議に出席（寒川） |
| 令和元年10月26日 | ◎第2回コンソーシアム会議に出席（中川・寒川） |
| 令和元年11月13日 | ○第6回プロジェクトチーム会議に出席（寒川） |
| 令和元年12月17日 | ◎第2回カリキュラム開発等専門家会議に出席（中川・寒川） |
| 令和2年 1月17日 | ○第7回プロジェクトチーム会議に出席（寒川） |
| 令和2年 1月22日 | ○課題研究発表会に出席（湊・中川・寒川） |
| 令和2年 1月22日 | ◎第3回コンソーシアム会議に出席（中川・寒川） |
| 令和2年 1月31日 | ○第8回プロジェクトチーム会議に出席（寒川） |
| 令和2年 2月12日 | ◎運営指導委員会に出席（寒川） |

- ：コンソーシアムのプロジェクトチームによる取組，◎：コンソーシアムによる取組
- ・プロジェクトチーム会議等において、事業全般を見通しての指導助言や事業管理、大学連携や研究開発の方向性の提案等を行った。
 - ・令和元年度は地域協働学習実施支援員のうち2名を社会人講師として雇用、令和2年度は残る2名を含め全4名を社会人講師として雇用予定である。
 - ・令和2年度は神山校の取組を参考に、徳島県独自に「ふるさと協働による高校教育の質の向上・充実化事業」を実施し、地域との協働・連携により高校教育の質の向上や魅力化を進める高校を支援することで、地域との協働による取組を県内の他の高校に広める。

⑥事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・現在のコンソーシアムの構成員を学校運営協議会委員に委嘱し、コミュニティ・スクールとして引き続きコンソーシアムによる地域との連携・協働を進める。
- ・地域協働学習実施支援員を引き続き徳島県が社会人講師として雇用する。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

| 実施項目 | 実施日程 | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 学校設定科目「神山創造学Ⅰ」におけるフィールドワーク | | 1回 | 2回 | | | | 2回 | | | | | 1回 |
| 学校設定科目「神山創造学Ⅰ」における活動報告 | | | | | | | | 2回 | | | | |
| 学校設定科目「神山創造学Ⅱ」によるプロジェクト活動 | | 3回 | 3回 | 1回 | | 2回 | 4回 | 4回 | | 5回 | 4回 | |
| 学校設定科目「神山創造学Ⅱ」による活動報告 | | | | 1回 | | | | 1回 | | 1回 | 1回 | |
| 科目「課題研究」における造園土木科の活動 | | 6回 | 8回 | | | 7回 | 8回 | 5回 | 3回 | 4回 | | |
| 科目「課題研究」における生活科の活動 | | 4回 | 7回 | 3回 | | 5回 | 9回 | 6回 | 3回 | 4回 | | |
| キャリア教育充実における仕事体験 | | | | | | | 1回 | | | | | |
| キャリア教育充実におけるインターンシップ | | | | | 2回 | 1回 | | | 1回 | | | |
| キャリア教育充実における講話 | | | 1回 | | | | | | | | 1回 | |
| 他教科等と関連させた指導 | | | | 1回 | | | 1回 | | | | 1回 | |
| 基礎学力の強化のための「学びの基礎診断」 | | | | | | | | | 1回 | | | |
| 地域性を生かした「専門人材の配置」 | | 3回 | 3回 | 1回 | | | 2回 | 2回 | 1回 | | 2回 | |
| 地域性を生かした「スタディツアー」 | | | | | 1回 | | | | | | | |
| 地域の生産・交流拠点としての「シードバンク」 | | 2回 | 1回 | | 1回 | | | | | | | |
| 地域の生産・交流拠点としての「校庭マルシェ」 | | | | 1回 | | | | 1回 | | | | |
| 地域を学びの場としての「森林ビジョン」 | | | | | | | 4回 | 3回 | | | | |
| 地域を学びの場としての「耕作放棄地対策」 | | | | | | | 2回 | 2回 | 4回 | 4回 | 3回 | |
| 地域を学びの場としての「石積み修復」 | | | | | | | | 2回 | 4回 | | | |

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

○「神山創造学」の再構築

「神山創造学」では、生徒が町内のフィールドワークを通じて、歴史・文化・暮らし・産業などの調査を行った。地域の将来を見据えた施策を行う行政や地域住民らと協働して、課題解決に向けたプロジェクト学習に取り組み、さらに「課題研究」に発展できるようカリキュラムを検討した。他教科等と相互に関連させた指導を行いながら、基礎学力の強化を図るとともに職業体験を取り入れ、生徒の職業観を育成した。

○地域性を生かした質の高い教育環境の整備

各コンソーシアム構成組織の有するネットワークを活用してゲスト講師を招聘したり、環境や農林業についての考え方を深めるスタディツアーを実施して指導者の専門性を高めた。また、カリキュラム開発等専門家の指導助言を受け、学校全体の教育の質を高めた。

○地域の生産・交流拠点の創出

地域でつないできた種のコムギを栽培し、高校内で種を保管できるよう計画を進めている。また、農産物や種苗、情報を交換する場所として本校芝生グラウンドを定期的に開放し、人が交流できる場所として「校庭マルシェ」を開催した。

○地域を学びの場とした実践

学校の演習林や、町内の耕作放棄地、高齢者宅や石積み修復を学びの場として、教科書や実習で学んだことを生かした様々な取組を行った。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

○「神山創造学Ⅰ」（2単位）第1学年対象 ※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員2名，1学年担任2名，地域協働学習実施支援員2名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」

（各学期末）定期考査

学習内容：・「神山創造学」を学ぶにあたって ・地域の現状を学ぶ

・地域の課題解決に向けた取組み ・職業体験プロジェクト

・聞き書きプロジェクト ・調査のまとめと発表

○「神山創造学」（2単位）第2学年対象 ※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員2名，2学年担任2名，地域協働学習実施支援員4名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」

（各学期末）定期考査

学習内容：・チームプロジェクト（課題調査，課題解決の実践，商品開発など）

国際交流，神農祭，加工品，景観創造の4チーム毎に実施

・プロジェクトのまとめと発表 ・活動報告作成

○「課題研究」（4単位）第3学年対象

教科「農業」の科目，総合的な学習（探究）の時間の代替科目

指導体制：農業科教員4名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」

主な内容：・課題の設定 ・調査・研究・実験・作品製作等

・中間発表 ・神農祭（文化祭）での発表

・課題研究「実践集」原稿作成 ・課題研究発表会

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

○「国語総合」（2単位）第1学年対象 「神山創造学」と関連した指導

- ・自ら設定した課題について調べたことを文章にまとめた。
 - ・職場体験やインターンシップの依頼状やお礼状の書き方を学んだ。
 - ・グループディスカッションをとおして各自の役割を理解し実践できた。
- 「科学と人間生活」（2単位）第1学年対象 「農業と環境」と関連した指導
- ・食品の三大栄養素について学習し、作物の栽培と生活の関連性について考えた。
 - ・微生物と発酵について地域でパンを製造している方を講師に招き、実際のパンづくりを通して学習した。
- ④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
- 校内カリキュラムチーム（教頭，教務主任，農場長，進路指導主事，地域協働学習実施支援員）を構成し，カリキュラム等専門家会議の前に次年度の教育課程，教員の配置，「神山創造学」から「課題研究」への接続方法等について協議した。また，コンソーシアム会議には本校教員全員が参加し，それぞれが関係している分科会で協議に加わることで，生徒の実態に合わせた地域との協働が推進できるようにしている。
- ⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）
- 連携推進事務局は，企画運営担当チーム，大学連携担当チーム，企業連携担当チーム，広報推進担当チーム，経理部の5チームからなり，学校全体として組織的な取組となるように，企画・立案や推進体制について検討を行い，実施に当たっては管理職が各チームの調整や監督を行った。
- ⑥ カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて
- カリキュラム開発等専門家：依頼した日に来校し，オープンスクール等の見学により生徒の実態を把握するとともに，研究開発等について協議する。
- 地域協働学習実施支援員：社会人講師として雇用又は神山つなぐ公社から派遣により授業の計画・実施に関わる。職員研修や外部との交渉等も行う。
- ⑦ 学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて
- コンソーシアムプロジェクトチーム会議で進捗状況を確認するとともに，年度末には今年度の取組について，生徒や教職員による自己評価と運営指導委員会からの指導・助言及び本校の学校評価委員会（学校評議員，PTA）からの評価を受けた。コンソーシアムを形成する大学・企業・NPO法人・地域の保小中学校からの指導・助言等も踏まえて，次年度に向けての課題を設定し，次年度の計画を修正するなどの改善を行った。
- ⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- 今年度カリキュラム開発等専門家会議を2回開催し，「神山創造学」の再構築と地域性を生かした質の高い教育環境の整備について協議を行った。また，コンソーシアム会議においても，カリキュラム開発等専門家会議での協議事項を踏まえて分科会を設け，「神山創造学」や「キャリア教育」などについて地域とどのような連携・協働が可能かについて協議した。
- ⑨ 運営指導員会等，取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について
- 様々な事業を実施しただけで生徒自身の変容が見られない，体験から経験へつなげてい

くために振り返りを行い、専門家の評価や生徒の自己評価から考えさせる場が必要等の意見をいただいた。また、改善方法についての助言をいただいた。

⑩ 類型毎の趣旨に応じた取組について

「神山創造学」では、生徒が町内でのフィールドワークを通して、地域の人との関係性を育み、地域で受け継がれてきた文化、仕事、産業について調査や研究を深め、そして地域の課題に気づき、本人が探究したいテーマを見つけ解決していくことを学んでいる。課題を解決することを一つのきっかけにして、将来の進路決定につないでいく取組になっている。さらに研究開発を進行することにより、地域との連携がより深まると、地域の人に生徒の実践が見えやすくなるとともに、本校の取組に対する地域からの評価を受けて、PDCAサイクルを構築できる。

3年間で地域の人と関わっていくことや、地域内の環境、食農、経済における地域内循環システムを生徒自ら体験することで、地域の担い手として具体的に果たすべき役割を自覚するとともに、学んだことを将来の進路に生かせる機会となっている。

⑪ 成果の普及方法・実績について

○課題研究発表会の開催についてのチラシの作成・地域への配布を行うとともに、課題研究報告集の編集を行った。

※配布先（本校教職員 20 名、本校生徒 80 名、新入生 30 名、発表会参観者 117 名）

○学校ホームページに研究開発の取組内容を掲載した。

○社団法人つなぐ公社主催の「つなプロ報告会」や各種イベントにおいて研究開発の取組内容を発表した。

○今年度の研究開発を行った内容を冊子として編集し、関係機関等に配布する。

※配布先（本校教員 20 名、本校生徒 55 名、新入生 30 名、コンソーシアム 18 名、運営指導委員 8 名、カリキュラム開発等専門家 2 名、地域協働学習実施支援員 4 名、地域魅力型指定校 19 校、県内の公立高校等 45 校、県教育委員会 25 冊）

8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定

- ① 本事業に関連する活動での学びを生かして自らの進路を実現する生徒の割合 24%（目標値 50%）
- ② 自分たちの取組が地域貢献につながっていると感じる割合 75%（目標値 80%）
- ③ 高校時代を過ごした地域で働いたり暮らしたい、あるいはその地域に将来的に関わりたいと考える生徒の割合 56%（目標値 80%）
- ④ 新入生の体験入学参加者割合 48.3%（目標値 90%）

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標

- ① 校庭マルシェ開催回数 2 回（目標値 4 回）、森林ビジョンと連携した演習林実習の実施回数 7 回（目標値 5 回）、孫の手プロジェクトにおける石積みの修復に関する依頼を受けた件数 2 件（目標値 2 件）、石積み実習の実施回数 6 回（目標値 4 回）、コース研修の実施回数 1 回（目標値 2 回）
- ② 研究活動の発表回数 10 回（目標値 10 回）
- ③ 本構想に関する教員研修の実施回数 3 回（目標値 3 回）、本構想に関する研究授業の実

施回数2回（目標値3回）

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標

- ① スタディツアーの実施回数1回（目標値2回），コンソーシアム活動回数3回（目標値4回），耕作放棄地対策活動回数15回（目標値10回），生産・保管している在来種・固有種の品種の数37種（目標値40種）
- ② ホームページでの取組紹介6回（目標値10回）

1年目で，十分な成果はあがっていないが，本事業の様々なプロジェクトを通して地域のことを知ることにより，地域の課題解決のためどうすれば良いかを自らが考え，実践しようと意欲的に取り組むことができるようになってきた。

9 次年度以降の課題及び改善点

本事業に関連する活動での学びを生かしてより多くの生徒が自らの進路を実現できるように，校内での学びと地域での学びを相互に結びつけること，また3年生での課題研究をより有意義なものにすることが課題である。次年度は学科再編により「地域創生類」として入学した生徒が2年生になり，初めて2つのコースに分かれるが，今年度1年間カリキュラム開発等専門家会議やコンソーシアム会議で協議してきたことを踏まえつつ，生徒が地域の人と関わっていくことや地域での体験を通して，地域の担い手として具体的に果たすべき役割を自覚し，学んだことを次の進路に生かせる「学びの個別最適化」に向けた取組を行う。具体的には，今年度取得したJGAP認証の維持に向けた活動や耕作放棄地対策としての小麦の栽培・加工・販売などを通して地域と協働した6次産業化の取組をより活発化させることで，生産・加工・流通・消費など，地域や学校で学んだことと社会とのつながりに気付かせる。また，生徒に育成する資質・能力とその到達度を共有するため3年間を見通したルーブリックを作成し，コンソーシアム会議などにおいて共通理解を図る。事業終了年度には，3年生での課題研究を充実させる取組を中核に据えて事業を進めるとともに，事業終了後のコンソーシアムとの連携の在り方についても協議する。

【担当者】

| | | | |
|-----|-------|--------|-------------------------------------|
| 担当課 | 学校教育課 | TEL | 088-621-3134 |
| 氏名 | 寒川 由美 | FAX | 088-621-2882 |
| 職名 | 指導主事 | e-mail | kanagwa_yumi_1@pref.tokushima.lg.jp |